

2023年2月10日

リクルート、生活者の実態を明らかにする 「よのなか調査（生活者編）第2回」を発表

消費・金融におけるデジタル化浸透などの観点で設問を複数追加
15～19歳の約半数（48.4%）がネット経由の個人間送金（銀行口座以外）経験あり
など、デジタル世代の行動特徴が明らかに

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘、以下リクルート）は、全国1万人の生活者を対象に「よのなか調査（生活者編）第2回」を実施しましたので、その結果を発表致します。

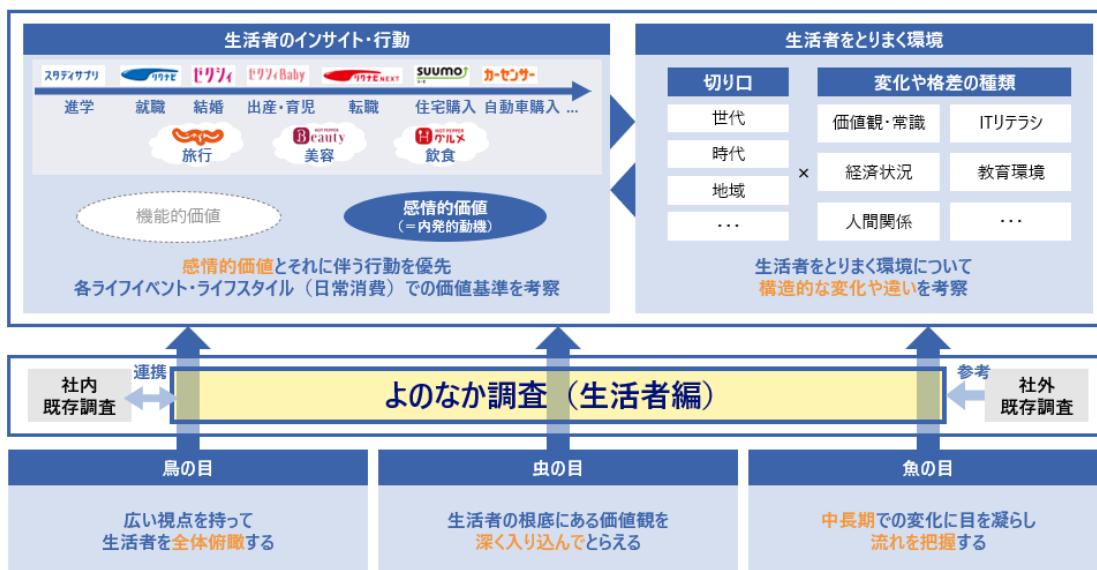
「よのなか調査（生活者編）第2回」とは

「よのなか調査」は、リクルートの事業とは直接関係しない領域も含めたより広い“よのなか”における生活者と事業者の“行動・考え方”を調査し、社会構造の変化を明らかにすることを目的とした、新しい試みです。

「よのなか調査（生活者編）」は、調査項目が“日常行動”、“生活様式”、“考え方”など多岐にわたります。2022年9月に第1回の調査結果を発表しました。第2回となる今回は、デジタル化の浸透などの社会変化の観点で、生活者の実態をより広く深く把握するため、第1回から趣味・娯楽や消費行動、金融サービス、決済など複数の項目を新たに追加し、調査しました。

今後は、毎年、調査を実施・発表し、“よのなか”を定点で把握していく予定です。

※「よのなか調査」開始の背景説明や「よのなか調査（生活者編）第1回」の結果については[こちら](#)



本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

「よのなか調査（生活者編）第2回」調査概要

- ・調査目的：多様化する生活者の実態を理解する
- ・調査方法：インターネット調査
- ・調査委託先：株式会社マクロミル（マクロミル保有の調査モニターを対象に実査）
- ・調査対象：全国の15～69歳の生活者10,352人
※2週連続で調査を実施し、両方に回答した人を対象としている
※性年代×エリアの構成比が2020年国勢調査の人口構成比どおりになるようにアンケートを回収（第1回調査のウェイトバック比率と同様）
- ・調査期間：①2022年9月17日（土） ②2022年9月23日（金・祝）の2回に分けて実施
※設問数が多く、回答者の負担を軽減するため
- ・調査項目：
 - 生活の概況
― 日常的な活動/情報収集/周囲の人との関わり方/日常の幸福度・満足度/物事の捉え方・考え方
 - 消費行動とその考え方
― お金に対する考え方/貯蓄・支出・決済手段の実態/食事に対する考え方/旅行に対する考え方/美容に対する考え方/
― 外出頻度/移動手段に対する考え方
 - パートナーとの出会い
― 出会いの実態/恋愛・結婚に対する考え方/パートナーとの生活の満足度
 - 家族との暮らし
― 親子関係・家族に対する考え方/家事・育児と仕事のバランス/幼少期の生活・環境
 - 住まいと環境
― 住まいに対する考え方/住まい・住環境/住まい・住環境の満足度
 - 学校生活と進路
― 学校教育・進路選択に対する考え方/オンライン学習/学生生活の満足度
 - 仕事・職場環境・キャリア
― 仕事に対する考え方/職場環境・働きやすさ/仕事の満足度/まなびに対する考え方/キャリア教育/キャリア支援

<生活の概況>

1. 1年以内に日常的に行っている活動を実施した頻度を聞いたところ、「ほとんど毎日」と回答した人の割合は、高い順に「テレビ・新聞・雑誌などの視聴・閲読」(68.1%)、「インターネット動画の視聴」(56.1%)、「趣味・娯楽としてのインターネット（動画は除く）」(53.9%)となった。
2. 1年以内に「週に1回以上」の頻度で「趣味・娯楽としてのインターネット（動画は除く）」や「インターネット以外のインドアの趣味・娯楽」「アウトドアの趣味・娯楽」について実施していると答えた割合は、年代が上がるにつれ、低くなる傾向が見られた（「アウトドアの趣味・娯楽」のみ、60代のみ高くなった）。
また、年代が上がるにつれ割合が高くなったのは、「テレビ・新聞・雑誌などの視聴・閲読」「自宅での飲酒」だった。
3. 日常の中で「幸福度」を10点満点で評価した場合、平均は6.0点。
1年以内に「趣味・娯楽としてのインターネット（動画は除く）」や「インターネット以外のインドアの趣味・娯楽」「アウトドアの趣味・娯楽」を実施している頻度との関係を見ると、「ほぼ毎日」と回答した人を除いて、頻度が高くなるにつれて8点以上の幸福度が高い人は増え、5点以下の幸福度が低い人は減ることが分かった。

<消費行動とその考え方>

4. 「金融サービス・制度」の利用経験（「現在利用している＋現在利用していないが、過去に利用したことがある」）を聞いたところ、「個人間送金」（銀行口座以外）と「融資型クラウドファンディング」において、10代と20代が1位と2位を占め、年代が上がるにつれて利用経験がある人の割合が減少する傾向があった。一方、「インターネットバンキング」は年代が上がるにつれ割合が高まる傾向があった。
5. お店で買い物をするときの支払い方法は、全世代で「現金」が最も多く、10代（63.4%）を除くと、20代～60代は約4割となった。続いて、10代は2位「QRコード決済」3位「電子マネー」、20代～60代は2位「クレジットカード、デビットカード（接触型）」、3位「QRコード決済」となった。

<仕事・職場環境・キャリア>

6. 人材を資本として捉え従業員一人ひとりの価値を最大限引き出し、中長期的な企業価値向上につなげる「人的資本経営」が注目される中、有職者における「目標をもって主体的に取り組んでいることがある」人の割合を見てみたところ、「あてはまる＋ややあてはまる」と答えた人は51.6%だった。
7. 「目標をもって主体的に取り組んでいることがある」が「あてはまる」人は、年代に関わらず「ややあてはまる」や「あまりあてはまらない」「あてはまらない」人よりも、「仕事の満足度」が10点満点中8点以上の割合が高い。
8. 有職者に、キャリア支援や働きやすさにつながる「職場環境」がそろっているかについて聞いたところ、「転職なし」の人、および「転職あり」の人の初職、転職後の現在の全てのステータスにおいて、「あてはまるものはない」の割合が4割を超え、最も高くなった。「あてはまるものはない」と答えた割合は、「転職あり（初職）」が49.5%と最も高くなっており、「初職」の方が労働環境の不十分さを感じる結果となった。
また、「職場環境」の項目のうち「あてはまる」と回答した割合はいずれも2割以下にとどまった。

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>

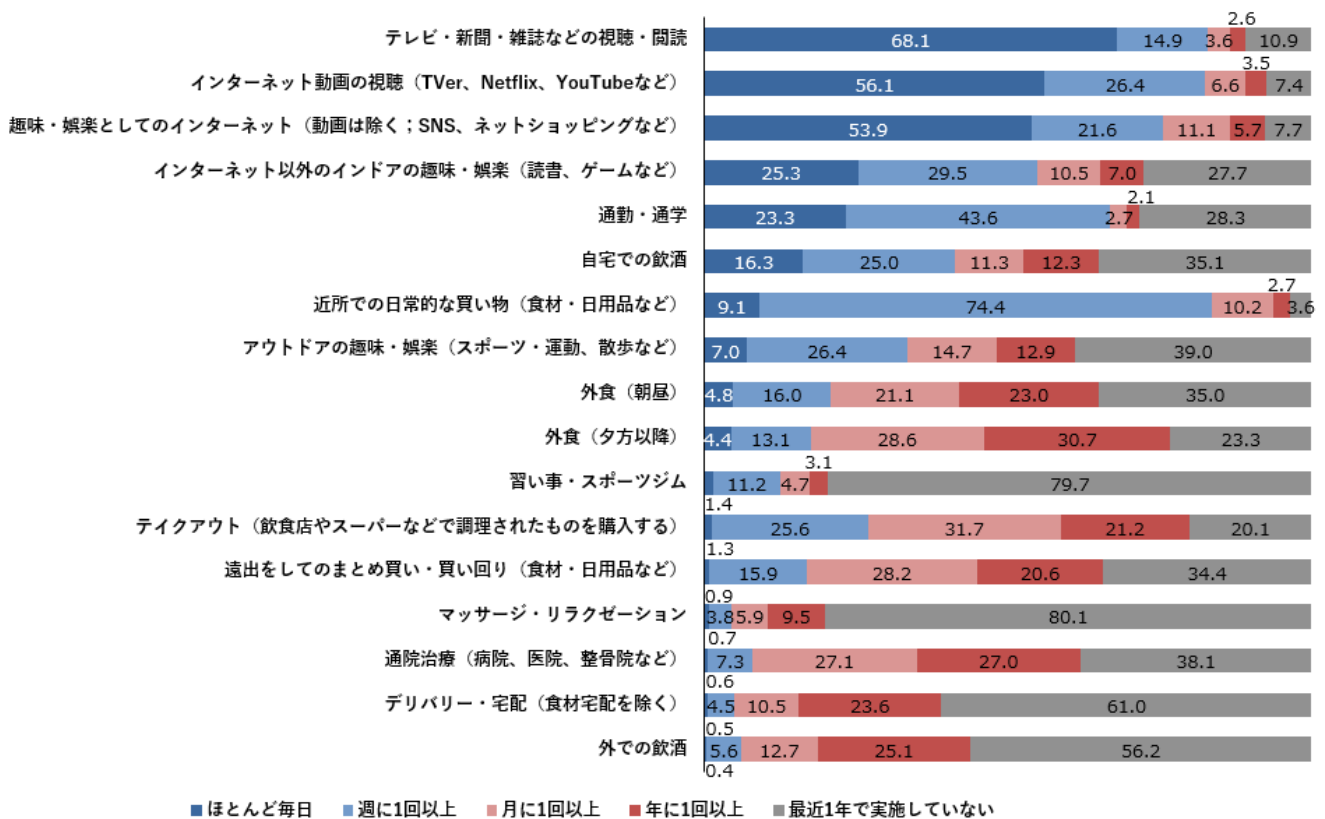
■生活の概況

1. 日常的に行っている活動

1年以内に日常的に行っている活動の頻度を聞いたところ、「ほとんど毎日」と回答した人の割合は、高い順に「テレビ・新聞・雑誌などの視聴・閲読」（68.1%）、「インターネット動画の視聴」（56.1%）、「趣味・娯楽としてのインターネット（動画は除く）」（53.9%）となった。

以下には、日常的に行っている活動を挙げております。あなたは最近1年間で、以下の活動をどのくらいの頻度で実施しましたか。あてはまるものをそれぞれお知らせください。（それぞれひとつずつ）

(単位：%)
N=10,352（飲酒項目のみ N=9,629）



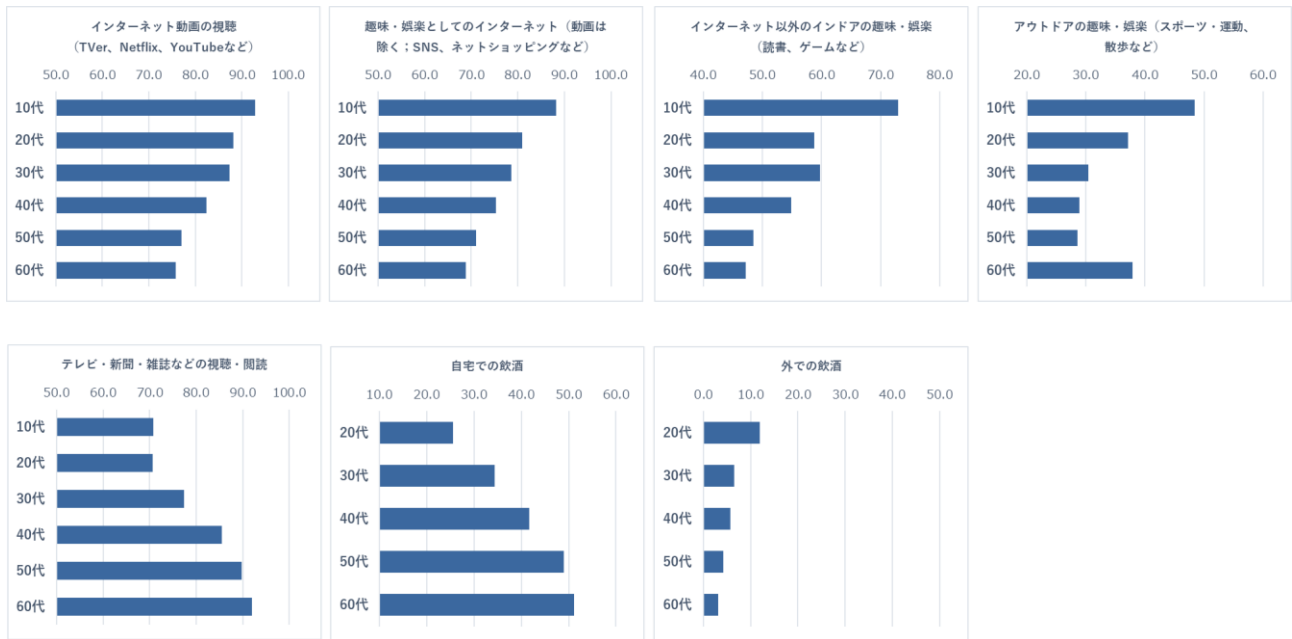
2. 趣味・娯楽、メディア視聴の年代特徴

日常的に行っている活動のうち、趣味・娯楽やメディア視聴に関わる項目を年代別に見たところ、1年以内に「週に1回以上」の頻度で「趣味・娯楽としてのインターネット（動画は除く）」や「インターネット以外のインドアの趣味・娯楽」「アウトドアの趣味・娯楽」について実施していると答えた割合は、年代が上がるにつれ、低くなる傾向が見られた（「アウトドアの趣味・娯楽」のみ、60代のみ高くなった）。また、年代が上がるにつれ割合が高くなったのは、「テレビ・新聞・雑誌などの視聴・閲読」「自宅での飲酒」だった。

以下には、日常的に行っている活動を挙げております。あなたは最近1年間で、以下の活動をどのぐらいの頻度で実施しましたか。あてはまるものをそれぞれお知らせください。（それぞれひとつずつ）

（単位：%）

N=10,352（飲酒項目のみ N=9,629）



3. 趣味・娯楽と幸福度の関係

日常の中で「幸福度」を10点満点で評価した場合、平均は6.0点。

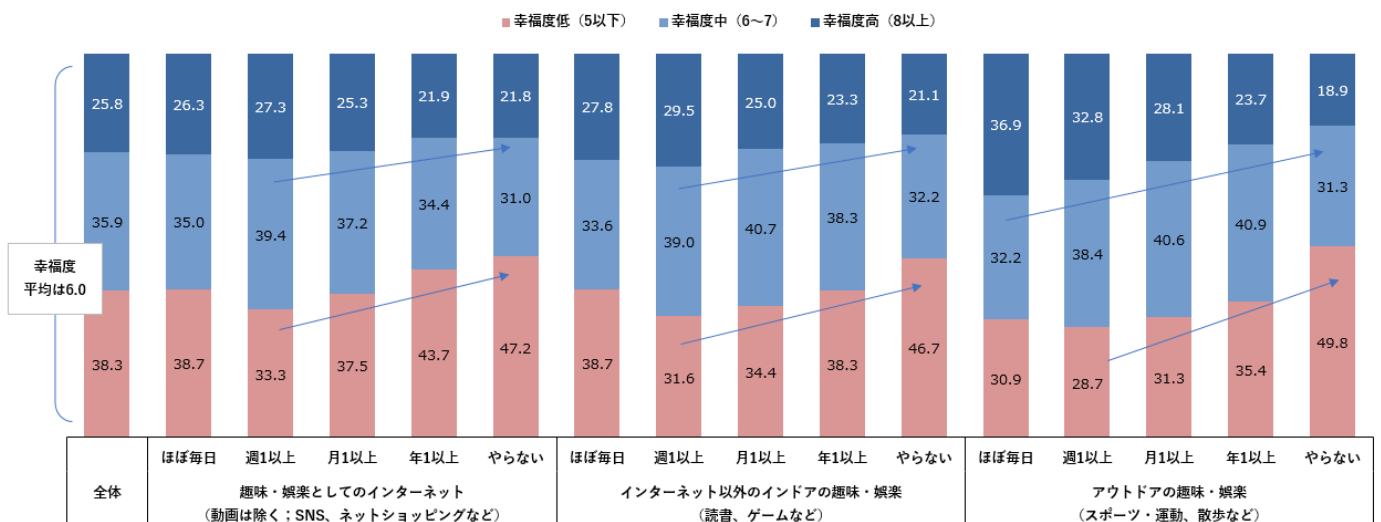
1年以内に「趣味・娯楽としてのインターネット（動画は除く）」や「インターネット以外のインドアの趣味・娯楽」「アウトドアの趣味・娯楽」を実施している頻度との関係を見ると、「ほぼ毎日」と回答した人を除いて、頻度が高くなるにつれて8点以上の幸福度が高い人は増え、5点以下の幸福度が低い人は減ることが分かった。

以下には、日常的に行っている活動を挙げております。あなたは最近1年間で、以下の活動をどのぐらいの頻度で実施しましたか。あてはまるものをそれぞれお知らせください。（それぞれひとつずつ）

あなたは普段どの程度幸福だと感じていますか。「非常に幸福」を10点、「非常に不幸」を0点として、あなたは何点ぐらいになると感じますか。あてはまるものをお知らせください。（ひとつだけ）

（単位：%）

N=10,352



■消費行動とその考え方

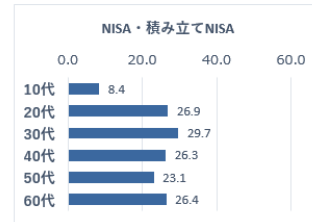
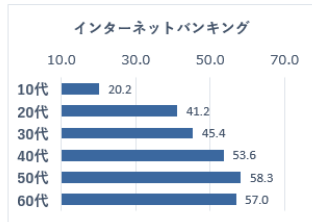
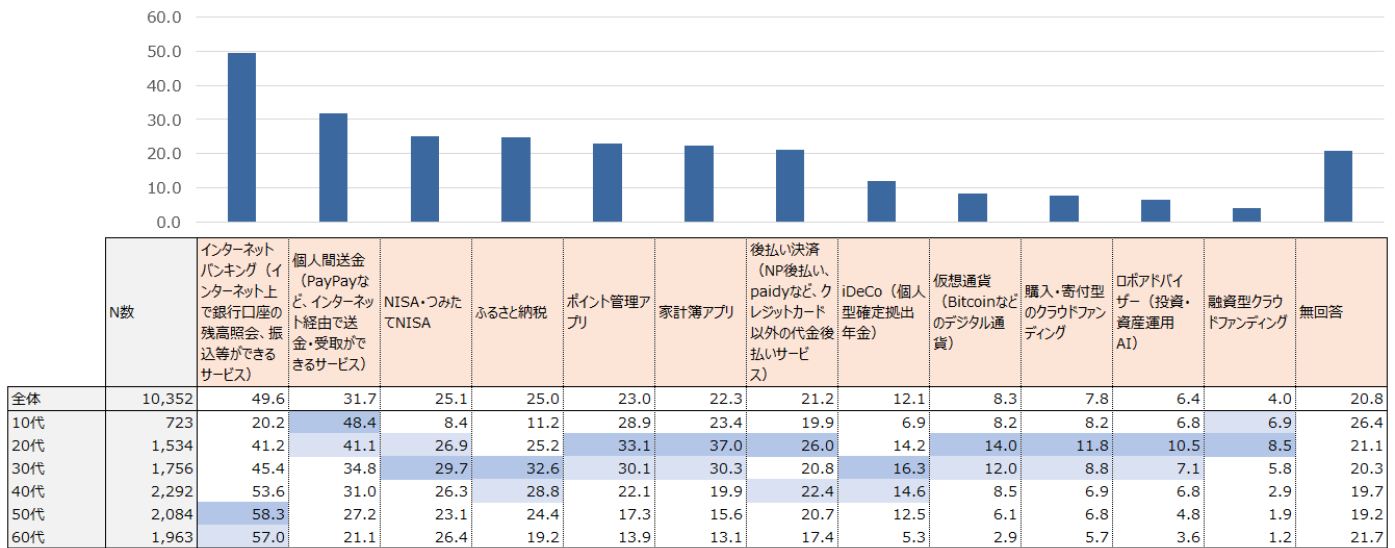
4. 金融サービス利用の年代特徴

「金融サービス・制度」の利用経験（「現在利用している＋現在利用していないが、過去に利用したことがある」）を聞いたところ、「個人間送金」（銀行口座以外）と「融資型クラウドファンディング」において、10代と20代が1位と2位を占め、年代が上がるにつれて利用経験がある人の割合が減少する傾向があった。一方、「インターネットバンキング」は年代が上がるにつれ割合が高まる傾向があった。

あなたは、以下の金融サービス・制度を知っていますか。また利用したことがありますか。あてはまるものをお知らせください。（それぞれひとつずつ）

（単位：％）

「現在利用している＋現在利用していないが、過去に利用したことがある」の回答割合の合計



5. 店頭での決済方法

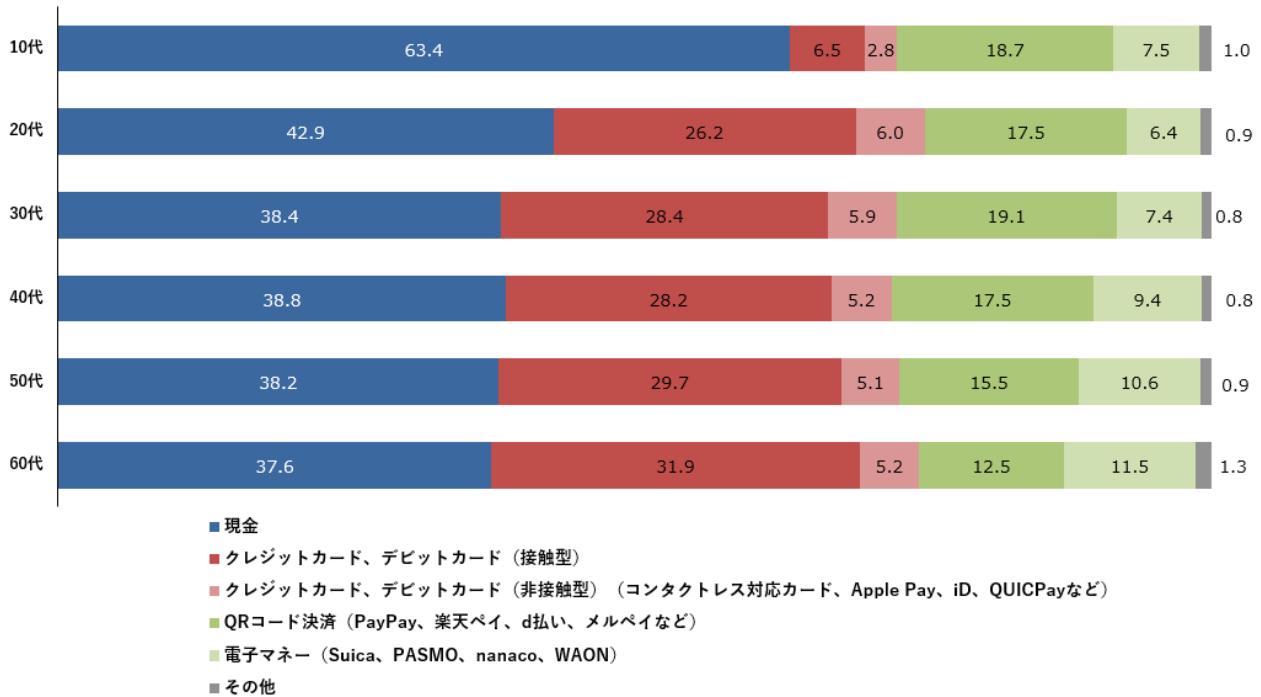
お店で買い物をするときの支払い方法は、全世代で「現金」が最も多く、10代（63.4%）を除くと、20代～60代は約4割となった。続いて、10代は2位「QRコード決済」3位「電子マネー」、20代～60代は2位「クレジットカード、デビットカード（接触型）」、3位「QRコード決済」となった。

あなたはご自身でお店での買い物や食事をするとき、支払い方法として、以下のそれぞれをどの程度の割合で使いますか。

(単位：%)

※合計で10になるように入力してください。なお、利用していない決済手段に関しては0と入力してください。

N=9,207



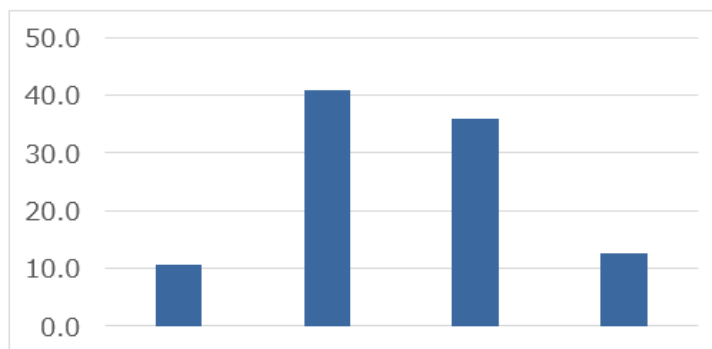
■仕事・職場環境・キャリア

6. 生活・仕事における主体性

人材を資本として捉え従業員一人ひとりの価値を最大限引き出し、中長期的な企業価値向上につなげる「人的資本経営」が注目される中、有職者における「目標をもって主体的に取り組んでいることがある」人の割合

あなたは生活や仕事などにおいて、以下の項目にどの程度あてはまりますか。(それぞれひとつずつ) [目標を持って主体的に取り組んでいることがある]。

(単位：%)



「目標を持って主体的に取り組んでいることがある」に対する各選択肢の回答割合

	N数	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
全体	6,871	10.7	40.8	35.8	12.6
10-20代	1,107	12.5	41.6	33.3	12.6
30代	1,382	11.2	41.4	34.4	13.0
40代	1,849	10.1	40.9	35.9	13.1
50代	1,541	8.8	38.0	39.0	14.1
60代	992	12.3	43.5	35.4	8.8

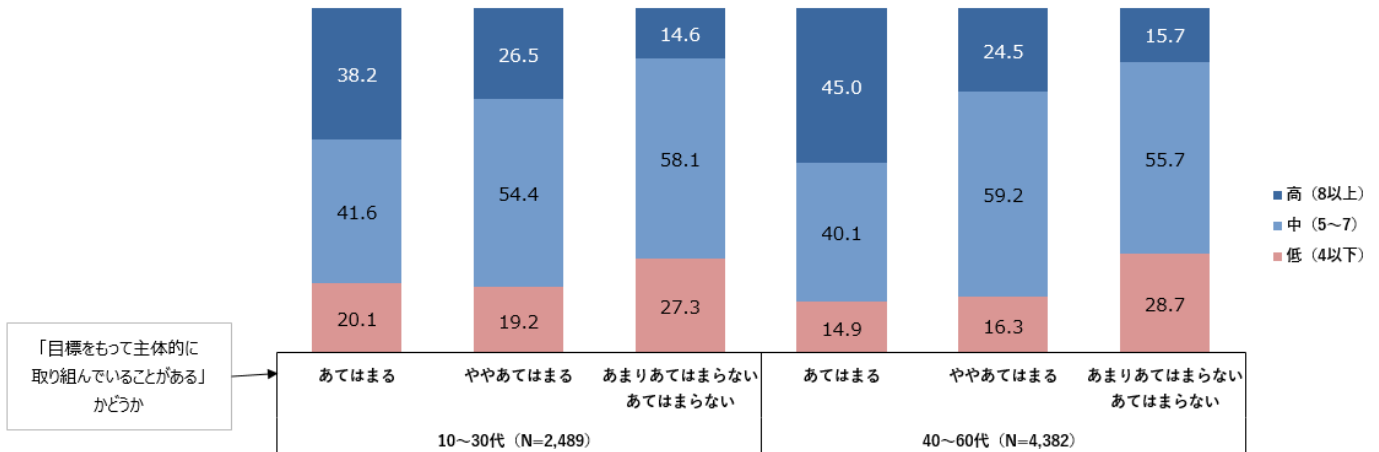
合を見てみたところ、「あてはまる+ややあてはまる」と答えた人は51.6%だった。

7. 主体性と「仕事の満足度」の関係

「目標をもって主体的に取り組んでいることがある」が「あてはまる」人は、年代に関わらず「ややあてはまる」や「あまりあてはまらない」「あてはまらない」人よりも、「仕事の満足度」が10点満点中8点以上の割合が高い。

あなたは生活や仕事などにおいて、以下の項目にどの程度あてはまりますか。(それぞれひとつずつ) [目標を持って主体的に取り組んでいることがある]。
 あなたは仕事についてどの程度満足していますか。「非常に満足」を10点、「非常に不満」を0点として、あなたは何点ぐらいになるといいますか。
 あてはまるものをお知らせください。(ひとつだけ)

(単位：%)

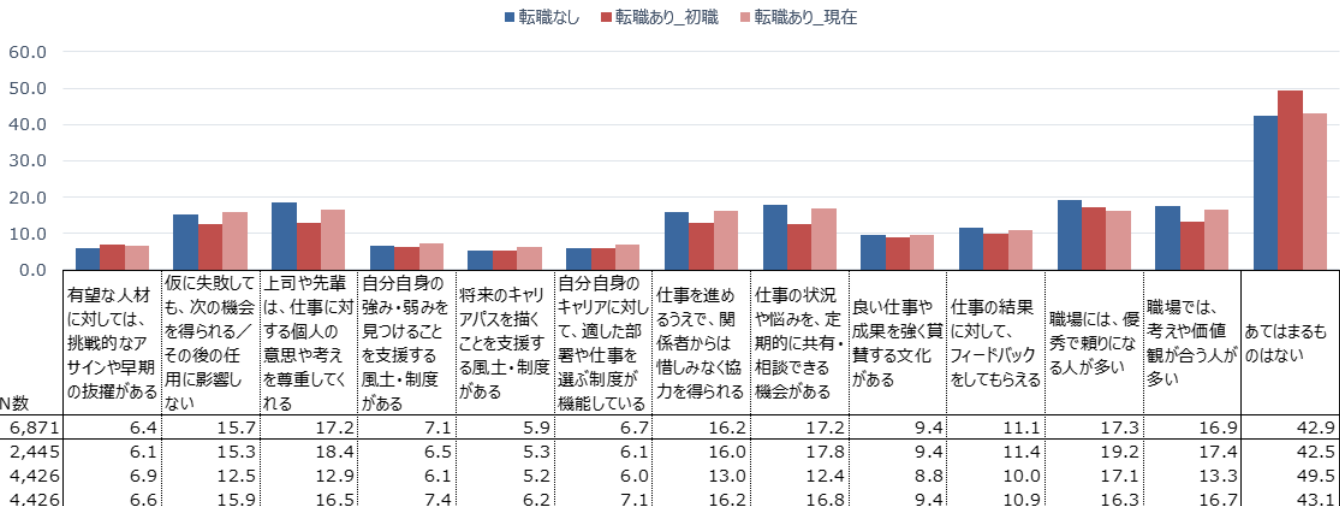


8. キャリア支援や働き方改善につながる「職場環境」の実態

有職者に、キャリア支援や働きやすさにつながる「職場環境」がそろっているかについて聞いたところ、「転職なし」の人、および「転職あり」の人の初職、転職後の現在の全てのステータスにおいて、「あてはまるものはない」の割合が4割を超え、最も高くなった。「あてはまるものはない」と答えた割合は、「転職あり(初職)」が49.5%と最も高くなっており、「初職」の方が労働環境の不十分さを感じる結果となった。

あなたの職場の環境は、以下の選択肢にあてはまりますか。初職時の職場と現在の職場について、それぞれあてはまるものをすべてお知らせください。
 なお、転職したことがない方は、「現在の職場」についてお知らせください。(それぞれいくつでも) ※表示されたものについてお答えください。

(単位：%)



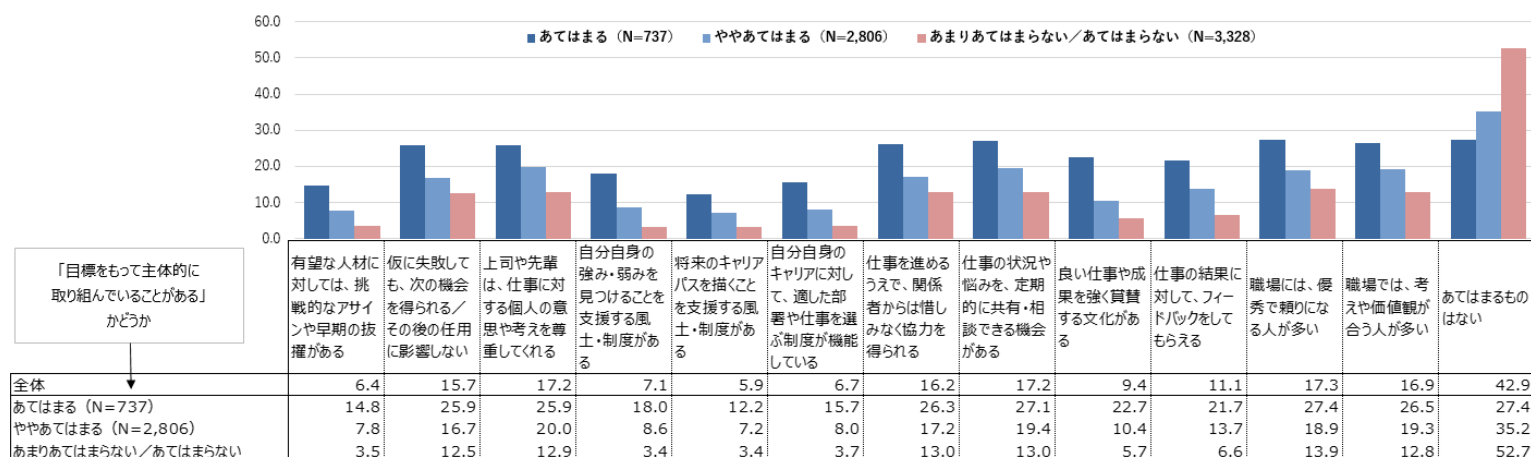
また、「職場環境」の項目のうち「あてはまる」と回答した割合はいずれも2割以下にとどまった。

9. 「職場環境」と「主体性」の関係

「目標をもって主体的に取り組んでいることがある」度合いが高い人ほど、キャリア支援や働きやすさにつながる「職場環境」について、いずれの項目も「あてはまる」と回答している人の割合が高い結果となった。

あなたは生活や仕事などにおいて、以下の項目にどの程度あてはまりますか。(それぞれひとつずつ) [目標を持って主体的に取り組んでいることがある]。
あなたの職場の環境は、以下の選択肢にあてはまりますか。現在の職場について、それぞれあてはまるものをすべてお知らせください。(それぞれいくつでも)

(単位：%)



また、最も「目標をもって主体的に取り組んでいることがある」人の割合が多い「職場環境」の項目は「自分自身の強み・弱みを見つけることを支援する風土・制度がある」で、主体的な人の割合は76.8%となった。

(単位：%)
N=6,871

該当する職場環境で働く人のうち「目標を持って主体的に取り組んでいることがある」人の割合

